

(3) GIGAスクール構想（徳島市子どもの学び推進プロジェクト）の進捗について

1 徳島市子どもの学び推進プロジェクト

「徳島市子どもの学び推進プロジェクト検討チーム会議」からの報告

令和2年度において、小学校・中学校及び市立高校に校内通信ネットワーク工事及びタブレット端末用の充電保管庫の設置を完了。

全児童・生徒及び教員へタブレット端末を配布。

- (1) タブレット端末の活用状況について…………… 別紙 1 参照
- (2) 今後の取組みについて

「子どもの学び推進プロジェクト」【別紙議事録（抜粋）参照】

家庭においては、タブレット端末を持ち帰り、学習ソフトを活用した学習の推進、
学校においては、ICTを活用した一斉・個別・協働学習の実践、

そして、これらを活用して、不登校児童・生徒への遠隔による学習支援の充実が
挙げられています。

また、災害時の活用や、避難所での学びの保障の必要性、21世紀型基礎能力と
して「読み・書き・そろばん」に加え、「情報スキル」が重要と示されています。

引き続き、「誰一人取り残すことのない、個別最適化された学び」の実現のため
に、各学校と連携し取り組んでいきたいと考えています。

家庭教育



家庭学習の充実

タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習

不登校等児童生徒への対応

臨休時のオンライン授業

学校教育

学習活動の一層充実

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

	「1人1台端末」ではない環境	「1人1台端末」の環境
一斉学習	教師が電子黒板等を用いて説明し子どもたちの興味関心意欲を高めることはできる	教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる →子どもたち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に
個別学習	全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学びは困難)	各人が同時に別々の内容を学習できる 各人の学習履歴が自動的に記録される →一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に
協働学習	グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい(積極的な子はいつも発表するが、控えめな子はいつも『お客さん』に)	一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる 各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる →全ての子どもが情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる

子ども主体の学習活動や先生主導による学びの場面で活用できます

対話的な学び (表現・協働)

電子黒板で共有

深い学び (整理・分析)

思考ツールを活用

学びの過程の振り返り (記録・再現)

学びのデータを活用

遠隔教育

日本語指導が必要な子どもを支援する遠隔教育

外国にルーツを持つ児童生徒等と日本語指導教室等をつなぎ、日本語指導の時間をより多く確保する

子ども個々の理解状況に応じて支援する遠隔教育

個々の児童生徒と学習支援員等を個別につなぎ、児童生徒の状況に応じて学習のサポートを行う

不登校の子どもを支援する遠隔教育

自宅や適応指導教室等と教室をつないで、不登校の児童生徒が学習に参加する機会を増やす

病弱の子どもを支援する遠隔教育

病室や院内分教室等と教室をつないで、合同で授業を行うことで、孤独感や不安を軽減する

徳島市 子どもの学び推進プロジェクト

一人一台タブレットと高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実現し、未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成する

徳島市の取り組み

- 学力向上への授業改善研修
- 情報ネットパトロール ● 心の教育の充実、情報モラル
- Edtech 補助金による学習ソフトの活用1月～3月
- ICT 支援員・学校支援ボランティア
- 不登校等への対応 ● 特別支援教育の充実
- 個別学習ドリルの活用



探究へのプロセス

学びをつなぐ STEAM 教育 (STEM 教育を基本とした教育手法)



徳島市タブレット 使用状況調査

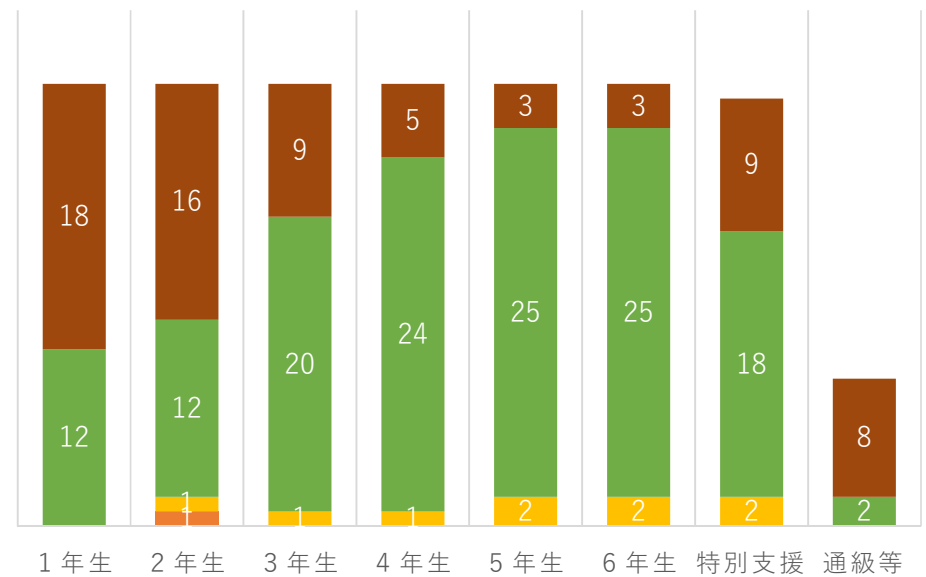
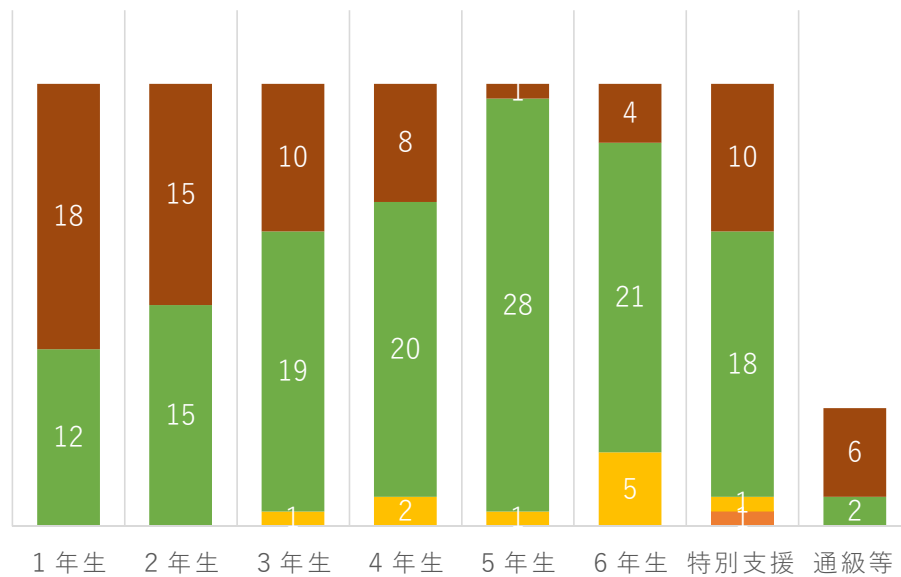
①学校でのタブレットの使用時間（小学校）

6月調査

10月調査

■ ほぼ毎時間
 ■ 3～4時間
 ■ 1～2時間
 ■ ほぼ使用なし

■ ほぼ毎時間
 ■ 3～4時間
 ■ 1～2時間
 ■ ほぼ使用なし



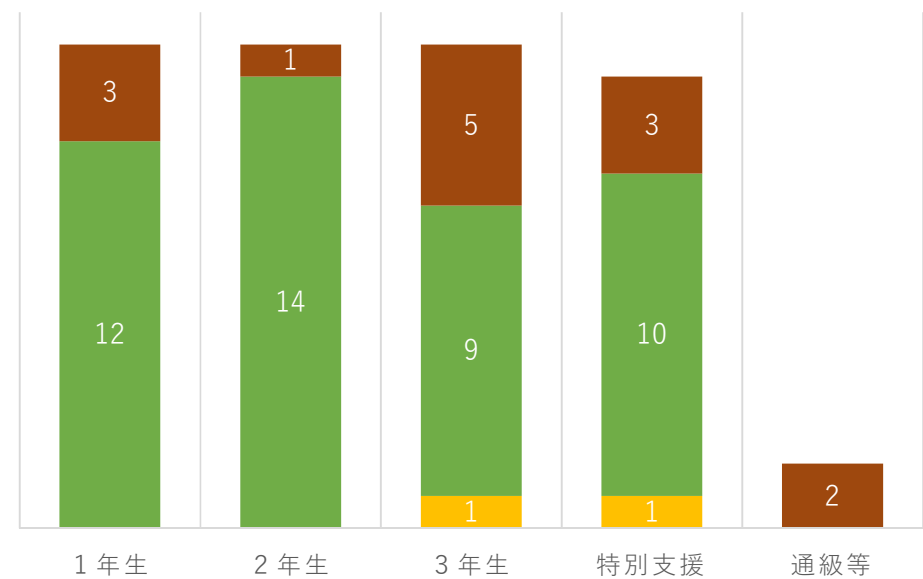
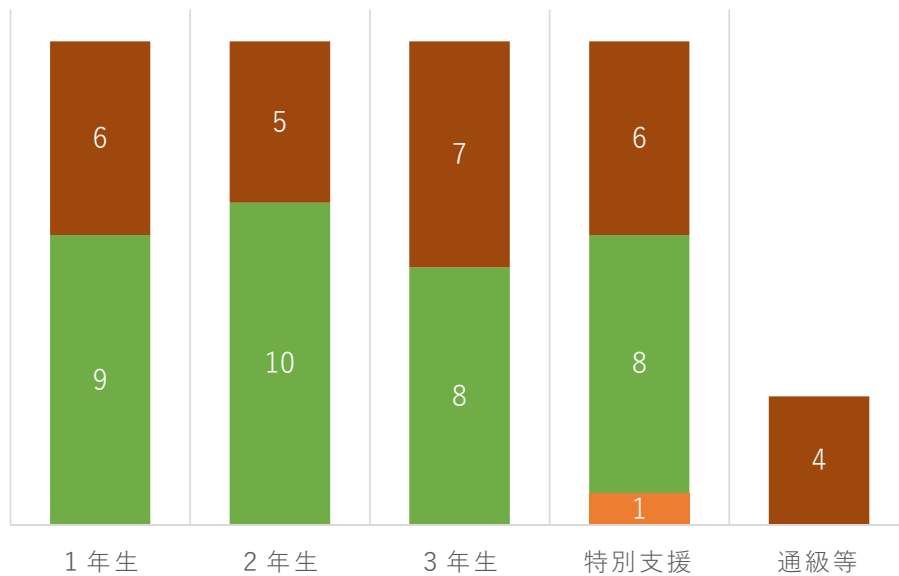
①学校でのタブレットの使用時間（中学校）

6月調査

10月調査

■ ほぼ毎時間 ■ 3～4時間 ■ 1～2時間 ■ ほぼ使用なし

■ ほぼ毎時間 ■ 3～4時間 ■ 1～2時間 ■ ほぼ使用なし



※
()の数字は十月調査に回答した学校数
←の右側の数字は六月調査に回答した学校数

②タブレットの活用方法（小学校）

- 調べ学習（30）←30
- 授業支援ソフト（Metamoji、まなびポケット等）（30）
- 個別学習ドリル（ミライシード、ドリルパーク等）（30）←28
- 動画等の撮影（25）←11
- 意見交換や発表（23）←16
- 教材の一斉配布（17）←12
- Teams（14）
- パワーポイントの作成（11）←10
- プログラミングソフト（ビスケット、スクラッチ等）（2）
- 作文（1）
- Mexcbt（1）
- Xsync Classroom（1）

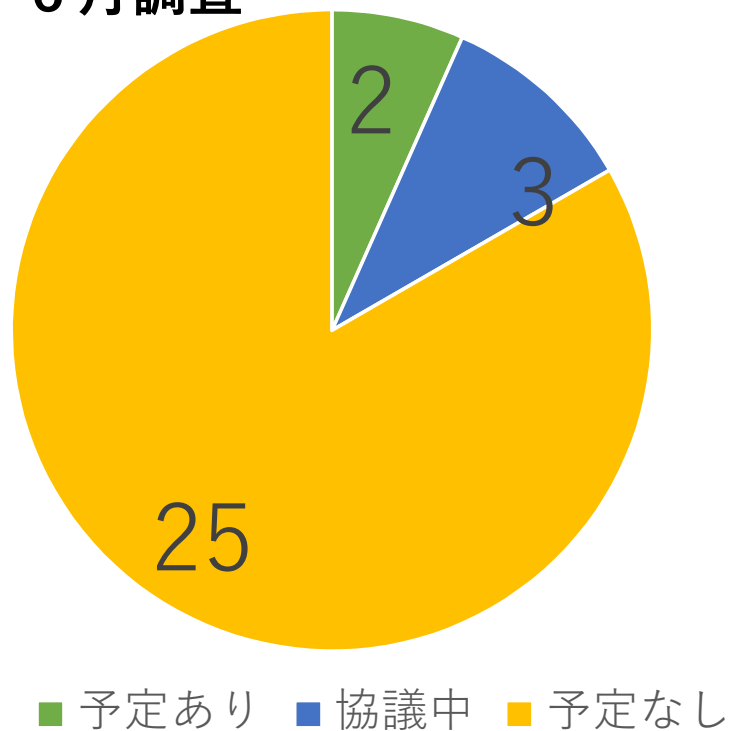
※（ ）の数字は十月調査に回答した学校数
←の右側の数字は六月調査に回答した学校数

②タブレットの活用方法（中学校）

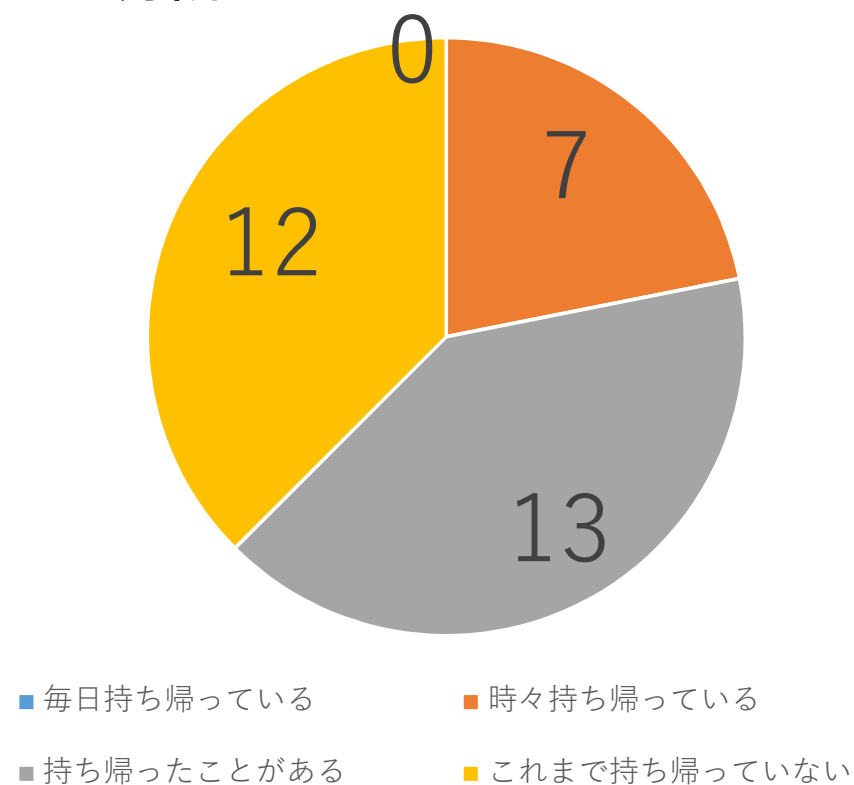
- 調べ学習（15）←12
- 授業支援ソフト（Metamoji、まなびポケット等）（15）
- 個別学習ドリル（ミライシード、ドリルパーク等）（15）←10
- 教材の一斉配布（9）←5
- 意見交換や発表（8）←6
- 動画等の撮影（8）←2
- Teams（6）
- パワーポイントの作成（3）←4
- 検温
- Mexcbt（1）
- Forms（1）
- Zoom（1）

③ タブレットの持ち帰りについて【小学校】

6月調査



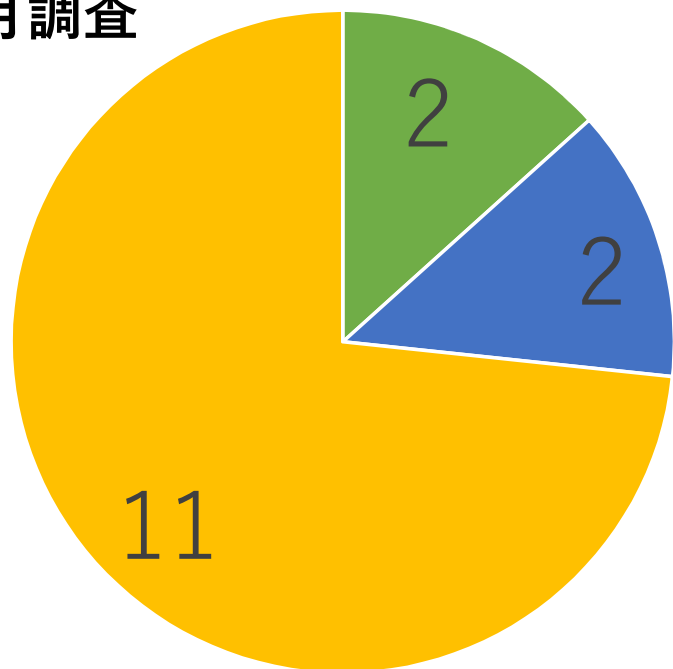
10月調査



※十月調査では、学年によって持ち帰りの頻度が違うため、合計数が学校数を超えている。

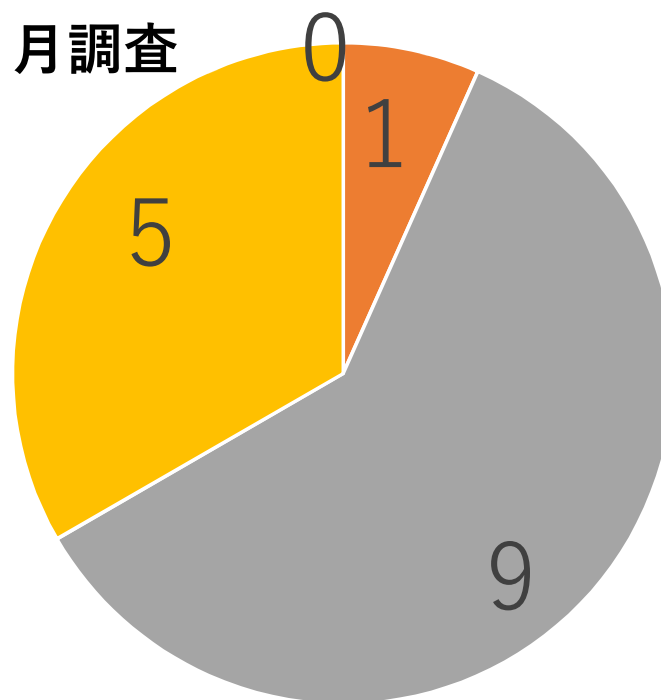
③ タブレットの持ち帰りについて【中学校】

6月調査



■ 予定あり ■ 協議中 ■ 予定なし

10月調査



■ 毎日持ち帰っている ■ 時々持ち帰っている
■ 持ち帰ったことがある ■ これまで持ち帰っていない

④タブレットを使用した家庭学習について (持ち帰りを行っている学校のみ)の回答)

<小学校>

- ・調べ学習
- ・授業支援ソフト (Metamoji)
- ・個別学習ソフト (ミライシード)
- ・作文・日記
- ・アンケート
- ・自主勉強 (自作プリント作成)
- ・危険箇所撮影 (総合学習)

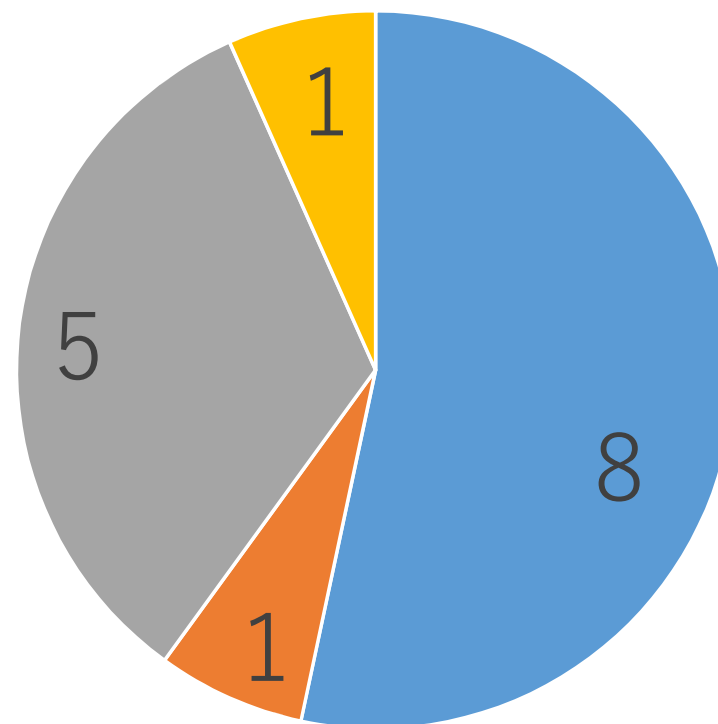
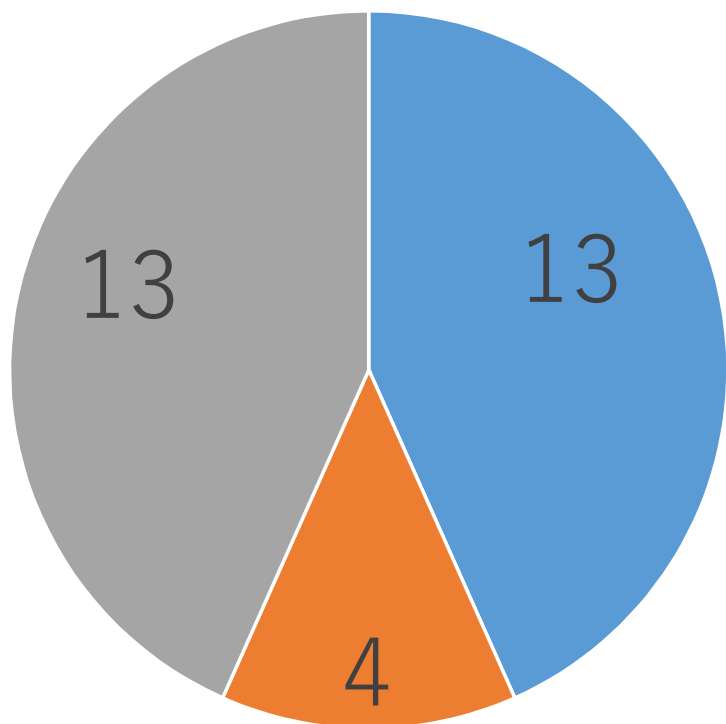
<中学校>

- ・調べ学習
- ・個別学習ソフト
- ・リコーダーの動画撮影

⑤Teamsを使ったオンライン授業の準備について

小学校

中学校



■できている ■一部できている ■できていない

■できている ■一部できている ■できていない ■未回答

準備が整っていない理由

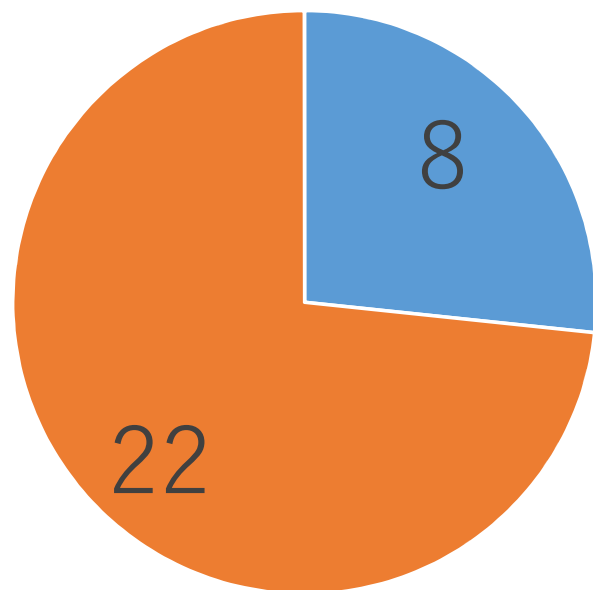
- Teamsの使い方を生徒へ指導できていない。
- 家庭でのWi-Fi環境が整っていない生徒の準備がまだできていないため
- 操作方法を十分に理解できていないため（児童・生徒・教員）
- タブレットの使い方やルール・マナーの定着を優先しているため
- 研修時間の確保が難しい。
- 研修は行ったが、まだ実践できるスキルが不十分なため。
- 家庭と学校との接続テストがまだ終わっていないため。
- 持ち帰って確認やアンケートまでは行ったが、会議に入るところまではできていない。漢字が多いため、低学年には難しい。
- 学習活動に効果的に使用する機会がまだ少ない。具体的な活用方法がわからない。
- セキュリティに不安がある。

今後の取組予定

- 生徒会で使用する予定である。
- 今後支援員のかも借りて実施予定
- Zoomでオンライン学習を準備中
- 2学期中に持ち帰り、接続テスト等を行う予定。
- Teamsで、中学校区の支援学級6年生と交流予定
- 試している学年もある。他学年でも実施予定。
- チームを作るところまではできているので、今後繋ぐ予定である。
- 教員のスキル習得や具体的な授業場面を想定した研修を今後予定している。

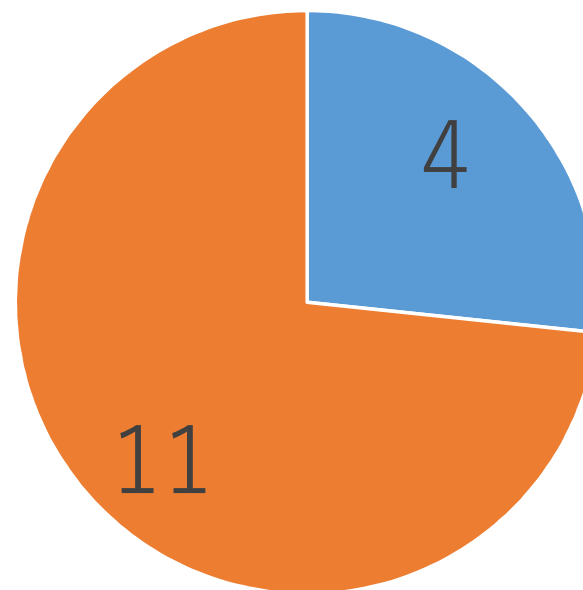
⑥オンライン授業を行ったことがあるか

小学校



■ ある ■ ない

中学校



■ ある ■ ない

オンライン授業の取組状況

- 不登校児童や体調不良による長期欠席者に授業配信
- 新型コロナウイルスの濃厚接触者への授業配信
- 避難訓練や体育参観の様子を教室待機している児童にTeamsで配信
- ゲストティーチャーによる授業をZoom配信
- 学校と支援学校を繋ぐZoomでの授業交流（居住地校交流）
- 新型コロナの再拡大を想定して、学校内で遠隔授業をおこなった。
- 他校との合同授業を行った。（Zoom）
- ダイバーシティ教育（10／29）
- 日本語指導が必要な生徒へZoomを用いて日本語指導している。
- Teamsを使用し、別教室でMetamojiを用いた授業を行った。
- 11月と12月に実施予定である。
- Zoomを使って平和学習や人権学習の授業を行った。

※（ ）の数字は十月調査に回答した学校数
←の右側の数字は六月調査に回答した学校数

⑦タブレット使用に関する課題（小学校）

- 教員のスキルが不十分（25）←25
- 児童生徒のスキルが不十分（19）←11
- 家庭のWi-Fi環境（18）←19
- ICT支援員の人数（18）←14
- 保護者への周知・理解（9）←15
- GIGAスクール構想の理解（8）←11

～その他の意見～

・ 接続が不安定、すべての特別教室にアクセスポイントがほしい。時間確保が難しい、ネットモラルやルールの統一が課題。

※（ ）の数字は十月調査に回答した学校数
←の右側の数字は六月調査に回答した学校数

⑦タブレット使用に関する課題（中学校）

- 教員のスキルが不十分（15）←14
- 児童生徒のスキルが不十分（11）←8
- 家庭のWi-Fi環境（10）←9
- ICT支援員の人数（10）←7
- GIGAスクール構想の理解（4）←3
- 保護者への周知・理解（2）←5

～その他の意見～

- 接続が不安定、体育館等にもアクセスポイントがほしい。時間確保が難しい、生徒の情報モラルの指導

「徳島市子どもの学び推進プロジェクトチーム会議」議事録【抜粋】

会議の名称

第1回 「徳島市子どもの学び推進プロジェクトチーム会議」 議事録

会議の目的

一人一台タブレットと高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実現し、未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指している。なお、家庭教育の充実・学校教育の充実・遠隔教育の充実を育成の柱と掲げている。

とき

令和3年7月9日(金) 15:30～

ところ

徳島市役所11階 1101会議室

出席者

委員9名(大学関係者・保護者代表・小中学校長含む)

事務局6名(徳島市教育委員会)

議題

- (1)「徳島市子どもの学び推進プロジェクト」について
- (2)タブレット端末の活用状況について
- (3)今後の取組について

議事内容(主な意見等)

(1)「徳島市子どもの学び推進プロジェクト」について

○タブレットの持ち帰りに関しては、保護者の生活環境や契約等の状況が懸念される。どの子どもも平等に学習が受けられるよう学校・行政・保護者が一体となって取り組んでほしい。

○Wi-Fi環境について国からの補助対象等について対策がとられている。また、オフラインでも使える学習教材もある。

○オフラインで使えるものを優先し、不公平が生まれないように手立てを講じながら、今後検討していきたい。

(2)タブレット端末の活用状況について

○1学期中に何度か試験的に持ち帰りを実施した。使い始めたばかりであるが、支援員の来る日とタイミングを合わせて、学習を進めている。子どもの方が慣れるのは早いので、教員の研修が必要であると感じた。

○3～6年生はTeamsでつながるところからはじめた。ドリルや検索の他、校区探検での活用も行った。また、7月上旬に親子タブレット教室を実施した。校長室だよりで「GIGAスクールのお話」を掲載し、家庭への周知を行っている。

○教員が便利だと実感すると、使用は広がる。人権の授業では、生徒が意見を発表しやすくなるように画面の色分けをしたり、数学の時間に個別にアドバイスをする際に活用したり、研究授業で生徒の考えを参観者に見えるように工夫をするなど、リアルタイムの学びの把握において様々な場面で利用している。

○活用状況を高めるためには、いい実践の情報共有やシェアをする仕組みをつくるのが有効である。また、タブレットを活用することで、学びにリアルタイムに対応することができる。

(3)今後の取組について

○災害時の利用についてどのように活用していくのか。

○オンラインでは最大200人までつながり、リモートで学習することができる。コロナ後も、二度と対面だけの授業には戻さないと、政府も言っている。避難所での学びの保障は必要である。また、教員も在宅で授業を行うことも考えられる。

○小一プロブレムや中一ギャップの問題にもタブレットは有効であると考えられる。例えば進学先の学校の様子を知るために体験学習の代わりにタブレットで授業や学校の様子を知ることもできる。また、教科担任制のオンライン授業での活用など、タブレットの利用による可能性の広がりを感じる。

○タブレットと既存のICTとの連携を進め、さらなる改善に努める。また、夏季休業中には7日間、13講座の研修も予定している。委嘱研究所員もタブレットを使った学習を研究テーマにし、年度末の発表を行う計画だ。

○タブレットの活用が進んでも、人との直接の関わりは重要である。ICT「も」活用しながら並行して教育を進めて欲しい。教育には本質がある。GIGAスクール構想の導入は、授業改善・生徒指導・情報教育の充実が目的である。21世紀型能力の基礎力として、「読み・書き・そろばん」に加え、「情報スキル」が示されている。教師の学力観と授業観の転換が重要である。

◇第2回 タブレット使用状況調査 (R3.10/25)

学校名 ()

①現在、1日の教育活動において、児童生徒は平均何時間程度(授業時数)使用していますか。
各学年ごとにア～エの記号でお答えください。

ア ほぼ毎時間使用 イ 3時間～4時間 ウ 1時間～2時間 エ ほぼ使用していない

【小学校】

1学年 ()
2学年 ()
3学年 ()
4学年 ()
5学年 ()
6学年 ()
特別支援学級 ()
通級教室・院内学級 ()

【中学校】

1学年 ()
2学年 ()
3学年 ()
特別支援学級 ()
通級教室・院内学級 ()

② 教育活動のなかで児童生徒がどのような活用をしていますか。(複数回答可)
()

ア 調べ学習 イ 個別学習ソフト ウ 意見交換・発表 エ パワポ作成 オ 動画等撮影
カ 教材の一斉配布 キ 学習アプリ(Metamoji まなびポケット ミライシード 他())
ク Teams ケ Mexcbt ク その他()

③ タブレットを自宅に持ち帰っていますか。または、持ち帰ったことがありますか。
()

ア 毎日持ち帰っている イ 時々持ち帰っている ウ 接続確認のため持ち帰ったことがある
エ これまで持ち帰っていない

④ 自宅ではどのような家庭学習をさせていますか。(複数回答可) (③でア・イと回答した学校のみ)
()

ア 調べ学習 イ 個別学習ソフト使用 ウ その他()

⑤ Teams等を使ったオンライン授業の準備はできていますか。

ア できている イ できていない
できていないと答えた学校は、その理由や課題をお書きください。また、今後の取組予定があれば記述してください。
()

⑥ これまでにオンライン授業を行ったことがありますか。(個別対応も含む)
(ア ある・イ ない)

上記で「ある」と答えた学校は、具体的にどのような状況で、どのような取組をしたのかを記述してください。

()

⑦ 現在、タブレット使用に関して課題となっているのは、どのようなことですか。(複数回答可)
()

ア 教員のスキル イ GIGA スクール構想の理解 ウ 児童生徒のスキル
エ 保護者への周知・理解 オ 家庭のWiFi環境 カ 支援員の人数
キ その他()

以 上